

親野智可等さん

(教育評論家)

教育・子育てには誤解がいっぱい！(下)

叱り続けることが子供に深刻な事態をもたらすという前回の話に続き、今回は「叩く」。しつけのためならという誤解で子を叩く親がいるが、それは恐怖で支配するのと同じ。それでは生きるうえでもっとも重要な自己肯定感は育たない。

無力な子供を叩くのは恥ずべきじゃない

——前は叱ることへの誤解、叱りすぎることの弊害についてお聞きしました。ただ、なかにはいまでも「昔の親のようにしつかり叱ってしつけるべき」と考える人もいるのではないかと思うのですが……。

たしかに「昔の親のほうがしつかり子供を育てた」「昔の教師のほうがしつかり教育していた」と言う人もいます。でも本当は、これほどの勘違いもまたないのです。なぜなら昔は、「いけないことをいけないと

身をもって教えるには叩くことも必要である」という考え方に基づいて、家庭でも学校でも教育のための体罰が当たり前に行なわれていたからです。それを「よかった」と言うのは、「隣の芝生は青かった」ならぬ「昔の芝生は青かった」にすぎません。

本人は口にしなくても、親や教師の暴力、体罰、罵詈雑言によって非常に傷つき、一生残るような心の傷あるいは体の傷を引きずりつつ大人になった人たちは山ほどいます。

たとえば知り合いの男性は、子供のころバナナが食べられなくて、給食の時間に先生から無理やりバナナしてしまう。恐ろしいことですよ。

を口につつまれて、窒息しそうな思いをした。それ以来バナナが食べられなくなりましたと言います。学生時代のアルバイト仲間は、一緒に食事をしたとき、隣にいる私がメガネを手で上げるたびに体をビクッとさせていた。不思議に思っ聞いてみると、食事時はいつも親父さんが隣に座って、しょっちゅう頭を叩かれていたのだそうです。その恐怖が染みついてしまつて、隣の人が手を上げると体が無条件にビクッと反応

——同じような話で、しつけで叩くことは許されるかということもあります。

これも驚いたことがあるのですが、私が以前ネットの教育相談で「どんなに小さい子でも叩くしつけは許されない」と書いたとき、「しつけなら叩いてもいい」と言う親が半数以上を占めました。いまの若い親でも「叩いていい」と考えている人が意外に多くて、本当にびっくりしました。

私は、どんな小さい子でも叩くことは絶対に許されないと思っています。たとえお尻やおでこであっても、叩くというのは恐怖心で相手を支配しようとする行為だからです。叩く側は、恐怖心でしつけようと思うからこそ叩



●おやの・ちから 一九五八年生まれ。二十三年間の教師経験をもとに教育評論家として活躍。「ダウンロード」の指南役としても知られる。著書多数。メルマガ「親力で決まる子供の将来」は、親や教師たちの圧倒的支持を得て、約四万五千人の読者を獲得している。全国各地の小学校や幼稚園・保育園のPTA、市町村の教育講演会でも大人気。